

スーパーマーケットにおける 災害対応の現状と課題と社会的責任について

—コープみらいの調査を中心に—

岡松小春

本論文は、スーパーマーケットにおける災害対応の現状と課題を明らかにし、社会的責任の観点から災害関連死の減少に向けた方法を探ることを目的としている。日本は災害多発地帯であり、スーパーは日常生活を支える重要な役割を担っているが、災害時にその機能が完全に果たされていない現状が明らかとなっている。コープみらいでは過去の大震災での対応を通じて、災害時の営業継続や従業員の安全確保に取り組んできた一方で、残された課題も明確化した。そこで、より具体的な課題を探るため、筆者が働くコープみらいの従業員を対象にアンケート調査を実施し、また本部職員である室町さんへのインタビュー調査を通じて、現場の実情と意識を把握した。調査の結果、訓練不足や従業員の災害意識にばらつきがあること、災害後の長期的な対応策が十分でないことが課題として浮き彫りとなった。このような課題を解決するためには、より具体的で実効性のあるマニュアルの整備や従業員への訓練の強化が求められる。また、災害関連死を減少させるためには、避難所のみならずスーパーマーケットを「日常回復の拠点」として活用する新たなアプローチが有効であることを提言した。